

令和4年度 白川郷学園 技術・家庭科研究構想

【研究主題】一人一人の学びが加速し、「先を読む力」を発揮する姿を目指して

技術・家庭科部が育てたい「ひとりだち」した人物像

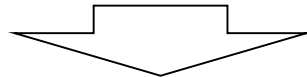
生活や技術の見方・考え方を働かせ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し創造する実践力のある人物

研究内容(1) 9年間を見通した「先を読む力」の明確化

前期課程（家庭）	後期課程（技術・家庭）
5・6年生	7・8・9年生
日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考える。	生活や社会の中から、問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想する。

研究内容(2) 児童生徒の多面的な実態把握と手立ての明確化

【日常的な実態把握】	【客観的データの活用】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業プリントの記述 ・ 授業や実習中の様子観察 ・ 簡単な技能実習を通じた巧緻性の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活経験等のアンケート調査 ・ 定期テストによる知識理解の把握 ・ 製作品等の実習の成果物の評価



実態に適した児童生徒への手立ての明確化

研究内容(3) 一人一人の学びが加速する学習活動の工夫

○学ぶ目的や必然を感じ、見通しをもって課題追究する導入の工夫	○試行錯誤を生み出す展開の工夫	○一人一人が学びを自覚し、自分でできた達成感を得られる終末の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日的な課題や生活とのつながりを感じ、魅力のある教材提示。 ・ スモールステップでスキルを身に付け、自ら解決の見通しがもてる指導計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒にとって適度抵抗のあり、多様な解が期待できる追究内容 ・ 十分な追究時間（実習時間）の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業プリントに振り返りの記述欄を設ける。「自分でできたこと」やどんな「学び方」をしたのか、振り返りの場を位置付ける。 ・ 個の変容や学び方を価値付ける。